

沖縄県立芸術大学附属研究所彙報

I 平成13年度研究業務状況

(1) 二部門以上共通

1. 沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館所蔵「鎌倉芳太郎資料集」刊行事業
[担当：芸術文化学部門・伝統工芸部門]
2. 沖縄県立芸術大学放送利用大学公開講座「沖縄の民俗文化と芸術」Ⅱ・Ⅰ
[担当：板谷徹教授・島袋常秀教授・波照間永吉教授・柳悦州助教授・久万田晋助教授・平田美奈子共同研究員 放送：沖縄テレビ放送]
平成14年1月12日～3月30日（各30分）
 - 第1回 1月12日 波照間永吉（附属研究所教授）「沖縄の祭祀習俗」
 - 第2回 1月19日 波照間永吉（附属研究所教授）「沖縄の祭祀文芸」
 - 第3回 1月26日 柳 悅州（附属研究所助教授）「沖縄の絣模様」
 - 第4回 2月2日 平田美奈子（附属研究所共同研究員）「古典紅型の模様」
 - 第5回 2月9日 板谷 徹（音楽学部教授）「琉球王国の芸能」
 - 第6回 2月16日 久万田晋（附属研究所助教授）「新世紀の沖縄音楽」
 - 第7回 2月23日 波照間永吉（附属研究所教授）「沖縄の神々の説話と形象」
 - 第8回 3月2日 波照間永吉（附属研究所教授）「沖縄の神々の説話と形象」
 - 第9回 3月9日 久万田晋（附属研究所助教授）「沖縄の歌と踊り」
 - 第10回 3月16日 柳 悅州（附属研究所助教授）「沖縄の織物」
 - 第11回 3月23日 島袋常秀（附属研究所教授）「沖縄の陶器」
 - 第12回 3月30日 久万田晋（附属研究所助教授）「アジアのなかの沖縄音楽」

（※第7回～12回は、平成12年度制作番組の再放送。）

(2) 芸術文化学部門

1. 地域文化の調査研究

- A 『琉球国由来記』の研究 [担当：波照間永吉教授]
 - B 沖縄の神歌の調査研究
 - C 与那国島の伝統文化の調査研究 [担当：加治工真市教授・波照間永吉教授・川平成雄調査員・平良勝保調査員・飯田泰彦調査員・与那覇仁一調査員]
- 2. 八重山方言辞典作成のための調査研究 [加治工真市教授]
 - 3. おもろ研究会（平山良明代表）開催 [担当：波照間永吉教授]
 - 4. 沖縄文化と日本文化の比較文化学的研究 [担当：ホルスト・S・ヘンネマン教授]
 - 5. 公開講座（無料）「宮古の歴史物語を読む会」（通年・毎週土曜日開催）
[担当：波照間永吉教授。講師：平良勝保共同研究員、上原孝三共同研究員]
 - 6. 公開講座（無料）「映画芸術論」 [担当：外間守善客員教授]（全6回。平成14年1月31日～2月8日）
 - 7. 平成10～12年度文部省科学研究費補助金〈基礎研究A〉成果報告書『沖縄与中国雲南省少数民族の基層文化の比較研究』の編集・刊行 [担当：波照間永吉教授]

(3) 伝統工芸部門

- 1. 沖縄染織の研究 [担当：柳 悅州助教授]
- 2. 鎌倉芳太郎紅型型紙の画像データベース作成と研究 [担当：柳 悅州助教授]
- 3. 織物技法研究 [担当：柳 悅州助教授]
- 4. アジア諸地域の伝統工芸の調査研究 [担当：柳 悅州助教授]
 - A ラオス織物文化研究
 - B ラオス北部・南部織物調査 平成13年1月9日～2月3日
 - C シルクロード沿い諸国の手織り機研究
- 5. リカレントコース「経験者のための織物実践講座～織物製作に必要な実践的な知識を基礎理論を含め講義と実習で学ぶ～」全10回

- 平成13年9月21日～11月21日 [担当：柳 悅州助教授]
- 第1回 9月21日 松村正明（神奈川県産業技術総合研究所）
「染色化学(1)染色や精練に必要な化学的な知識と考え方」
- 第2回 9月25日 松村正明（神奈川県産業技術総合研究所）
「染色化学(2)」
- 第3回 9月28日 柳 悅州（附属研究所助教授）
「織の基礎知識と組織」
- 第4回 10月10日 柳 悅州（附属研究所助教授）
「織物分解（演習）織組織を知る」
- 第5回 10月17日 片岡 淳（琉球大学助教授）
「沖縄の植物纖維の可能性」
- 第6回 10月24日 ルバース吟子（美術工芸学部教授）
「御絵図の構造」
- 第7回 10月31日 柳 悅州（附属研究所助教授）
「御絵図のデザイン（演習）」
- 第8回 11月7日 柳 悅州（附属研究所助教授）
「手結い絆のデザイン（演習）」
- 第9回 11月14日 柳 悅州（附属研究所助教授）
「絵絆のデザイン（演習）」
- 第10回 11月21日 祝嶺恭子（美術工芸学部教授）
「沖縄の織物の可能性と展開」

(4) 伝統芸能部門

1. 沖縄・奄美の民俗音楽調査研究 [担当：久万田晋助教授]
 - A 沖縄本島における創作エイサーの調査研究
 - B 奄美諸島の民俗芸能・音楽の調査研究
2. 沖縄古典舞踊の技法研究 [担当：宮城能鳳教授・久万田晋助教授]
3. 沖縄奄美民俗音楽関係資料の収集 [担当：久万田晋助教授]
4. アジア諸地域の伝統音楽芸能調査研究
 - A インドネシア・バリ島の音楽芸能の調査研究 [担当：梅田英春助教授]

5. 公開講座（有料）「琉球王国と技術」全10回

平成13年10月～12月 [担当：粟国恭子附属研究所共同研究員]

第1回 10月4日 沖縄文化と技術史～技術史の現状～

第2回 10月11日 琉球王府と技術(1)～王府組織と技術職～

第3回 10月18日 琉球王府と技術(2)～琉球の技術文化～

第4回 10月25日 歴史・民俗・考古学と技術

第5回 11月1日 沖縄女性文化にみる技の世界

第6回 11月8日 沖縄の金属文化(1)

～王府時代の金属文化・金銀銅錫の流通を中心に～

第7回 11月15日 沖縄の金属文化(2)～金属製品の技術 梵鐘・簪・酒器～

第8回 11月22日 沖縄の工芸文化～祭祀道具への眼差し～

第9回 11月29日 観光と工芸文化～現代の工芸文化の展開～

第10回 12月6日 現在を歩く工芸文化～伝統工芸と新世代の試み～

II 平成14年度研究業務状況

(1) 二部門以上共通

1. 沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館所蔵「鎌倉芳太郎資料集」刊行事業

[担当：芸術文化学部門・伝統工芸部門]

(2) 芸術文化学部門

1. 地域文化の調査研究

A 『琉球国由来記』の研究 [担当：波照間永吉教授]

B 沖縄の神歌の調査研究

C 与那国島の伝統文化の調査研究 [担当：加治工真市教授・波照間永吉教授・川平成雄調査員・上原孝三調査員・平良勝保調査員・飯田泰彦調査員・与那霸仁一調査員]

2. 八重山方言辞典作成のための調査研究 [加治工真市教授]

3. 文部科学省特定領域研究 “環太平洋の「消滅に瀕した言語」に関する緊急

調査研究”琉球方言班〔担当：加治工真市教授・波照間永吉教授・久万田晋助教授・西岡敏調査員・仲原穰調査員〕

4. おもろ研究会（平山良明代表）開催〔担当：波照間永吉教授〕
5. 沖縄文化と日本文化の比較文化学的研究〔担当：ホルスト・S・ヘンネマン教授〕
6. 公開講座（無料）「新しく語る琉球文学」〔担当：波照間永吉教授〕

平成14年11月28日～平成15年2月6日 全10回

第1回 11月28日 波照間永吉（附属研究所教授）
「琉球文学のあらまし」

第2回 12月5日 斎藤郁子（琉球大学非常勤講師）
「初期琉球文学研究1」

第3回 12月12日 斎藤郁子（琉球大学非常勤講師）
「初期琉球文学研究2」

第4回 12月19日 玉城伸子（沖縄県立芸大非常勤講師）
「才モロにみる神女1」

第5回 12月26日 玉城伸子（沖縄県立芸大非常勤講師）
「才モロにみる神女2」

第6回 1月9日 前城淳子（琉球大学助手）
「琉歌によまれた地名」

第7回 1月16日 前城淳子（琉球大学助手）
「詠み歌琉歌の世界」

第8回 1月23日 上原孝三（琉球大学非常勤講師）
「琉球文学の中の宮古文学」

第9回 1月30日 上原孝三（琉球大学非常勤講師）
「狩俣の神話的世界—フサ・ニーリをめぐって—」

第10回 2月6日 波照間永吉（附属研究所教授）
「八重山の文学—歌謡を中心に—」

(3) 伝統工芸部門

1. 沖縄染織の研究 [担当：柳 悅州助教授]
2. 鎌倉芳太郎紅型型紙の画像データベース作成と研究 [担当：柳 悅州助教授]
3. 織物技法研究 [担当：柳 悅州助教授]
4. アジア諸地域の伝統工芸の調査研究 [担当：柳 悅州助教授]
 - A ラオス織物文化研究
 - B ラオス北部・南部織物調査、平成15年2月20日～3月17日
 - C シルクロード沿い諸国の手織り機研究
5. リカレントコース「美術史・芸術学への誘い」全7回
平成14年9月19日～10月31日 [担当：柳 悅州助教授]
第1回 9月19日 鶴田武良（中国近現代美術研究資料センター）
「中国の現代美術」
第2回 9月26日 小池寿子（國學院大學教授）
「美術に見るヨーロッパの死生観」
第3回 10月3日 尾形希和子（附属研究所助教授）
「イタリア美術への招待」
第4回 10月10日 小林純子（美術工芸学部講師）
「美術の琉日交流史」
第5回 10月17日 浅野春男（美術工芸学部教授）
「プロヴァンスのセザンヌ」
第6回 10月24日 ホルスト・S・ヘンネマン（美術工芸学部教授）
「伝統芸術文化のわざとこころ」
第7回 10月31日 平山敬二（美術工芸学部教授）「芸術と社会」

(4) 伝統芸能部門

1. 沖縄・奄美の民俗音楽調査研究 [担当：久万田晋助教授]
 - A 沖縄本島におけるチョンダラー関連芸能の調査研究
 - B 奄美諸島の民俗芸能音楽の調査研究
2. 沖縄古典舞踊の技法研究 [担当：宮城能鳳教授・久万田晋助教授]
3. 沖縄奄美民俗音楽関係資料の収集 [担当：久万田晋助教授]

4. アジア諸地域の伝統音楽芸能調査研究

A インドネシア・バリ島の音楽芸能の調査研究 [担当：梅田英春助教授]

B 文化講座（無料）「アジア音楽の現在」全6回

平成15年3月19日～31日 [担当：久万田晋助教授]

第1回 3月19日 草野妙子（沖縄県立芸術大学客員教授）

「総論 アジア音楽の現在」

第2回 3月20日 草野妙子（沖縄県立芸術大学客員教授）

「朝鮮半島の音楽にみる伝統と現代化」

第3回 3月24日 梅田英春（附属研究所助教授）

「インドネシアの音楽芸能にみる伝統と現代化」

第4回 3月26日 大谷紀美子（高知大学教授）

「インドの音楽芸能にみる伝統と現代化」

第5回 3月28日 高橋美樹（琉球大学附属中学校講師）

「沖縄音楽における伝統と現代化 新民謡～沖縄ポップ」

第6回 3月31日 久万田晋（附属研究所助教授）

「日本の近代音楽史における対外エキゾチズムと沖縄」

III 主要研究業績（平成13年1月～平成14年12月）

1) 研究所員主要研究業績

- 1. 著書・編書
- 2. 論文
- 3. 作品発表・公演
- 4. 研究発表
- 5. 解説等
- 6. 講演・放送
- 7. その他

2) 助成研究

- 1. 平成13年度～平成14年度において研究代表者、研究分担者となっている
科学研究費研究
 - a 研究代表者となっているもの
 - b 研究分担者となっているもの
- 2. 沖縄県立芸術大学芸術振興財団助成研究
- 3. その他

(1) 研究所長

波照間 永吉（教授、専任教員）

平成13年

- 1) 2. 「『島中おもろ』を読む」『沖縄芸術の科学』第13号 沖縄県立芸術大学附属研究所、pp.105-170、平成13年3月。
2. 「雲南省元陽県全福庄のハニ族文化（報告）」（張正軍氏と共に著）『平成10・11・12年度文部省科学研究費補助金〈基礎研究A〉成果報告書 沖縄与中国雲南省少数民族の基層文化の比較研究』沖縄県立芸術大学附属研究所、pp.79-94、平成13年3月。
2. 「雲南省元陽県硐鋪村と箐口村のハニ族文化（報告）」（張正軍氏と共に著）『平成10・11・12年度文部省科学研究費補助金〈基礎研究A〉成果報告書 沖縄与中国雲南省少数民族の基層文化の比較研究』沖縄県立芸術大学附属研究所、pp.95-110、平成13年3月。
2. 「中国雲南省大姚県戛華郷彝族の挿花祭」（張正軍氏と共に著）『平成10・11・12年度文部省科学研究費補助金〈基礎研究A〉成果報告書 沖縄与中国雲南省少数民族の基層文化の比較研究』沖縄県立芸術大学附属研究所、pp.95-110、平成13年3月。
2. 「書評 内田順子『宮古島狩俣の神歌—その継承と創成—』」『日本文学』50号 日本文学会、pp.75-78、平成13年3月。
2. 「才モロの表現と構造」『復帰25周年記念／第3回沖縄研究国際シンポジウム 世界につなぐ沖縄研究』復帰25周年記念／第3回沖縄研究国際シンポジウム実行委員会、pp.236-245、平成13年9月。
2. 「沖縄の船・航海・祭祀—説話と歌謡から—」『東北学』第5号 東北芸術工科大学東北文化研究センター、pp.201-224、平成13年10月。
4. 「古琉球の“移動”——才モロにみる人々の動き」第4回沖縄研究国際シンポジウム「世界に拓く沖縄研究」第4分科会「文学」、平成13年9月23日。
6. 講演「沖縄の船・航海・祭祀—説話と歌謡から—」平成13年度沖縄文化協会公開講演会、平成13年11月24日。
6. 講演「沖縄の神々の形象—説話・祭祀・芸能にみる—」宮城学院女子

- 大学キリスト教文化研究所講演会、宮城学院女子大学キリスト教文化研究所、平成13年12月8日。
6. 番組構成・出演「平成12年度沖縄県立芸術大学放送公開講座<沖縄の民族文化と芸術> 第1回沖縄の祭祀習俗」(30分番組)、沖縄テレビ放送、平成13年1月12日。
 6. 番組構成・出演「平成12年度沖縄県立芸術大学放送公開講座<沖縄の民族文化と芸術> 第2回沖縄の祭祀文芸」(30分番組)、沖縄テレビ放送、平成13年1月19日。
 7. 「八重山舞踊に『楽しみ』を求めて」光扇会宇根由基子八重山舞踊研究所第十回発表会『「新節の寿」パンフレット』光扇会宇根由基子八重山舞踊研究所、平成13年1月21日。
 7. シンポジウム「大学開放の現状と課題—今後の公開講座のあり方を考える—」平成12年度琉球大学生涯学習教育研究センターシンポジウム、琉球大学生涯学習教育研究センター講義室、平成13年2月20日。
 7. 書評「宮里英伸著『八重山不連続線一心豊かに故郷を生きる—』」『琉球新報』、平成13年6月9日。
 7. 編集協力『組踊への招待』(矢野輝雄著)琉球新報社、平成13年8月23日。
 7. 「あとがき」『復帰25周年記念／第3回沖縄研究国際シンポジウム 世界につなぐ沖縄研究』復帰25周年記念／第3回沖縄研究国際シンポジウム実行委員会、平成13年9月20日。
 7. 発表要旨「古琉球の“移動”一オモロにみる人々の動き—」『第4回沖縄研究国際シンポジウム沖縄大会—世界に拓く沖縄研究—基調報告・研究発表要旨集』第4回沖縄研究国際シンポジウム実行委員会、p.70、平成13年9月。
 7. 発表要旨「沖縄の航海・祭祀・文学」『第4回沖縄研究国際シンポジウムヨーロッパ大会—世界に拓く沖縄研究—基調報告・研究発表要旨集』第4回沖縄研究国際シンポジウム実行委員会、p.102、平成13年9月。
 7. シンポジウム参加「第4回沖縄研究国際シンポジウム 世界に拓く沖縄研究」第4分科会「文学」、平成13年9月23日。

7. 「八重山の新しい舞踊芸術の創出一本盛秀先生の世界にふれてー」秀風会本盛秀舞踊研究所第九回発表会・喜寿記念公演『「秀風鳳舞」パンフレット』秀風会本盛秀舞踊研究所、平成13年10月28日。

平成14年

- 1) 1. 『定本おもろさうし』(共編著者: 外間守善) 角川書店、平成14年2月28日。
1. 『石垣市史叢書索引 I』(波照間永吉研究室で共編) 石垣市役所、平成14年3月29日
1. 『石垣方言語彙一覧』(宮城信勇・加治工真市・西岡敏氏と共に編) 文部科学省特定領域研究“環太平洋の「消滅に瀕した言語」に関する緊急調査研究” A 4-017 「環太平洋の言語」日本班、平成14年11月28日。
2. 「八重山歌謡にみる地名」『沖縄芸術の科学』第14号 沖縄県立芸術大学附属研究所、pp.1-125、平成14年3月。
2. 「奄美と才モロ」『奄美沖縄民間文芸学』第2号 奄美沖縄民間文芸学会、pp.51-62、平成14年3月。
2. 「〈覚書〉アイヌ文学と琉球文学」『東北学』第6号 東北芸術工科大学東北文化研究センター、pp.242-253、平成14年4月。
2. 「沖縄の祭祀習俗」『沖縄県立芸術大学大学放送公開講座 沖縄の民俗文化と芸術(I・II) テキスト』(全12回放送の第1・2／7・8回の4回分) 沖縄県立芸術大学附属研究所、pp.1-22, pp.41-62、平成14年1月10日。
2. 「沖縄の神々の形象—説話の神と祭祀・芸能の神—」『キリスト教文化研究所年報』第35号 宮城学院女子大学キリスト教文化研究所、pp.3-33、平成14年3月15日。
2. 「御嶽項目解説」(宮古の御嶽—漲水御嶽等全22項目—、八重山の御嶽—宮鳥御嶽等全22項目)、「島項目」(宮古諸島有人島全島、八重山諸島有人島全島)、「民俗・芸能項目」(伊集の打花鼓・泡瀬の京太郎・ユークイ・ウヤガン・プーリィ・川平のマウンガナシイ・小浜島の結願祭・西表島の節祭・竹富島の種子取り祭・波照間島のムシャーマ・アカマ

- タクロマタ・与那国島の祭事の芸能)『日本歴史地名大系第48巻 沖縄県の地名』平凡社、平成14年12月10日。
2. 辞典項目「竹富島の種子取り祭」「小浜島の芸能」『祭・芸能大辞典』朝倉書店、平成14年。
 4. 「沖縄の船・航海・祭祀—八重山の事例を中心に—」沖縄・八重山文化研究会、平成14年2月17日。
 4. 「沖縄の船・航海・祭祀」第4回沖研究国際シンポジウムヨーロッパ大会、ドイツ国ボン大学、平成14年3月26日。
 4. 「『久米仲里旧記』にみるコスモロジー」。公開シンポジウム「久米島の伝えてきたこと—祭祀・歌謡・伝説を中心に—」奄美・沖縄民間文芸学会久米島大会、平成14年8月4日。
 6. 講座「沖縄の民俗・文化・芸能」沖縄県同中小企業同友会、第8回同友会大学、平成14年6月15日。
 6. 連続講座「古代沖縄のこころ『オモロ』への誘い」くすぬち平和文化館主催、平成14年7月6日～8月1日（全5回・毎週木曜日）。
 6. 講演「沖縄の古歌謡から考える—信仰と世界観—」沖縄国際大学南島文化研究所・湖南文化研究所学術交流講演会、平成14年7月26日。
 6. シンポジウム「久米島の伝えてきたこと—祭祀・歌謡・伝説を中心に—」奄美・沖縄民間文芸学会久米島大会、平成14年8月4日。
 6. 放送「Q A B 旧盆特別番組“七月に踊ら”」Q A B 琉球朝日放送、平成14年8月22日。
 6. 講座「沖縄のことばと文化」大同火災損害調査株式会社定例勉強会“ミミグスイ・ヌチグスイ講座”、平成14年9月6日。
 6. 講座「琉球文学の中の『おもろさうし』」平成14年度沖縄学講座—市民のための沖縄学入門（浦添市）、平成14年10月5日。
 6. 講座「琉球文学のあらまし」沖縄県立芸術大学附属研究所公開講座「新しく語る琉球文学」（全10回の第1回目）、平成14年11月28日。
 6. 講座「沖縄文化論—オモロから琉歌まで—」沖縄エコツアーガイド養成講座、N P O 法人沖縄環境クラブ、平成14年12月12日。
 7. 書評「松山御殿物語刊行会編『松山御殿物語』」『琉球新報』、平成14年

11月24日。

7. 「沖縄の船・航海・祭祀—八重山の事例を中心に—」『沖縄・八重山文化研究会報』121号（沖縄・八重山文化研究会）、平成14年3月17日。
7. 「『鎌倉芳太郎資料集』の刊行に寄せて」『鎌倉芳太郎資料集 第一巻 紅型型紙（一）』（沖縄県立芸術大学附属研究所）、平成14年3月20日。
7. 「あけず舞・はべる舞のこと」『高嶺久枝「かなの会」発表会パンフレット』平成14年11月9日。

補遺

平成10年研究業績

7. 翻訳 “HOWLING WOLF/SEIJIN NOBORIKAWA” CD 解説書、pp. 6-31、OMAGATOKI CO.,LTD

(2) 芸術文化学部門

加治工 真市（教授、兼任教員）

平成13年

- 1) 1. 編集『宮良當壯全集1 日本方言語彙(5) 索引 (A～J)』第一書房、平成13年9月。
2. 「竹富方言の基礎語彙－分野5、衣－」『琉球の方言』25号 法政大学沖縄文化研究所、pp.139-155、平成13年3月。
2. 「古見方言の基礎語彙＜分野(3)植物から分野(4)食＞」『沖縄藝術の科学』第13号 沖縄県立芸術大学附属研究所、pp.1-104、平成13年3月。
2. 「哈尼語、摩梭語の基礎語彙」『平成10・11・12年度文部省科学研究費補助金〈基礎研究A〉成果報告書 沖縄と中国雲南省少数民族の基層文化の比較研究』沖縄県立芸術大学附属研究所、pp.1-21、平成13年3月。
2. 「西表島、鳩間島及び新城島における動植物の方言名について」（共著者：石垣金星・嵩原健二・花城良廣）『西表島総合調査報告書』沖縄県立博物館、pp.35-59、平成13年3月。
6. シンポジウム記録「環太平洋文化圏の中の沖縄と日本」『復帰25周年記

念第3回「沖縄研究国際シンポジウム」世界につなぐ沖縄研究－沖縄大会・シドニーハイアード－』復帰25周年記念第3回「沖縄研究国際シンポジウム」実行委員会・沖縄文化協会、pp.795-825、平成13年9月。

7. 「序」『平成10・11・12年度文部省科学研究費補助金〈基礎研究A〉成果報告書 沖縄と中国雲南省少数民族の基層文化の比較研究』沖縄県立芸術大学附属研究所、pp.i - ii、平成13年3月。

平成14年

- 1) 1. 編集（共編者：狩俣繁久・津波古敏子・高橋俊三）『文部科学省特定領域研究 環太平洋の「消滅の危機に瀕した言語」にかんする緊急調査研究 A 4-019消滅に瀕した琉球語に関する調査研究』、平成14年3月。
1. 編集（共編者：宮城信勇・波照間永吉・西岡敏）『文部科学省特定領域研究 環太平洋の「消滅の危機に瀕した言語」にかんする緊急調査研究 石垣方言語彙一覧』、平成14年11月。
2. 「竹富方言の基礎語彙一分野6（食）、分野7（住居）－」『琉球の方言』26号 法政大学沖縄文化研究所、pp.47-89、平成14年3月。
2. 「与那国方言について」『文部科学省特定領域研究 環太平洋の「消滅の危機に瀕した言語」にかんする緊急調査研究 A 4-019消滅に瀕した琉球語に関する調査研究』、pp.263-307、平成14年3月。
2. 「八重山・鳩間島方言」『国文学 解釈と鑑賞』第67巻7号 至文堂、pp.59-76、平成14年。

尾形 希和子（助教授、平成14年10月より兼任教員）

平成14年

- 1) 2. 「『他者』との出会いと新しい語りの可能性－クリス・マルケル『レヴェル5』沖縄上映会が意味するもの－」上村忠男編『沖縄の記憶／日本の歴史』未来社、pp.247-267、平成14年5月（初出：『Quadrante』no.4、東京外国语大学海外事情研究所、pp.145-156、平成14年3月）。
4. 「沖縄の図像の解釈の試み－沖縄図像研究会活動報告」（「沖縄図像研究

- 会」メンバー尾形希和子、桂由起、小林純子、花城郁子による共同発表)
沖縄民俗学会例会、那覇市：沖縄県立芸術大学、平成14年11月16日。
6. 「イタリア美術への招待」(平成14年度沖縄県立芸術大学附属研究所リカレントコース 美術史・芸術学への誘い)、平成14年10月3日。
 7. 「沖縄美術の30年(4) 軌跡と展望／90年代以降」沖縄タイムス、平成14年10月10日。
 7. エッセイ「グローバルとローカルの間のイタリア」『地中海学会月報』250、p.4、平成14年5月。

(3) 伝統工芸部門

島袋 常秀 (教授<平成14年4月昇任>、兼任教員)

平成13年

- 1) 3. 「赤絵草文皿他2点」01やちむん展、読谷村美術館、平成13年2月。
3. 沖展、浦添市体育館、平成13年3月。
3. 「大皿」国展、東京都美術館、平成13年4月。
3. 「赤絵草文皿 他100点」島袋常秀陶芸展、東京都池袋：西武百貨店、平成13年8月。
3. 「大皿他数百点」常秀工房展、常秀工房うつわ家、平成13年12月。

平成14年

- 1) 3. 「赤絵皿他2点」02やちむん展、読谷村美術館、平成14年2月。
3. 沖展、浦添市体育館、平成14年3月。
3. 「大皿」国展、東京都美術館、平成14年4月。
3. 「食器100点」島袋常秀作陶展、クラフトショップ俊、平成14年6月。
3. 「金高手酒器他50点」島袋常秀展、画廊沖縄、平成14年11月。
3. 「食器他100点」島袋常秀やちむん展、民芸きょうと、平成14年11月。

長尾 紀寿 (教授、平成14年10月より兼任教員)

平成14年

- 1) 3. 利久屏風「型絵染・アダン」(記念賞受賞) 京都工芸美術作家協会記念

展、京都府文化芸術会館、平成14年2月。

3. 屏風2曲1双半「神の島（沖縄久高島）」（清流会買上）第12回染・清流展、京都市美術館、平成14年5月。
3. 2曲屏風「神の島・アダンの木」第54回京展、京都市美術館、平成14年5月。
3. 平面作品「沖縄の秘祭－遠来神を祝ふ豊年祭」（奨励賞）第1回利根山光人ビエンナーレ、北上市、平成14年8月。
3. 紅型振袖「春の花嫁に」・紅型着物「夏の母に」第57新匠工芸展、京都市美術館・東京都美術館、平成14年11月。

柳 悅州（助教授、専任教員）

平成13年

- 1) 2. 「ラオスの高機と腰機・細帯機」『沖縄芸術の科学』第13号 沖縄県立芸術大学附属研究所、pp.171-181、平成13年3月。
2. 「雲南省緑春県と元陽県の織機」『平成10・11・12年度文部省科学研究費補助金（基盤研究A）研究成果報告書 沖縄与中国雲南省少数民族の基層文化の比較研究』沖縄県立芸術大学附属研究所、pp.149-159、平成13年3月。
3. 「経浮織帯」第75回《国展》、東京都立美術館、平成13年4月。
3. 飾り布「チベットにて」国画会75年記念「工芸の継承と展開」展、西部アート・フォーラム、平成13年10月。
3. 「チベットにて」他1点、沖縄県立芸術大学「織教員展」、沖縄県立芸術大学、平成13年12月。
3. 「浮織帯地」国展工芸イギリス展、イギリス・ブラックウェル美術館、平成13年10月。
4. 「ラオスの腰機・シルクロードの地機」沖縄染織研究会、平成13年7月。
4. 「沖縄の織物模様」第4回沖縄研究国際シンポジウム、沖縄県立芸術大学、平成13年9月。
5. 解説「糸を作る」企画展図録『工芸王国 人・技・心』沖縄県教育委員会、平成13年3月。

7. ラオス北部織物調査（同行：久万田晋）、平成13年2月1日～2月19日。

平成14年

- 1) 1. 編著『鎌倉芳太朗資料集 第1巻－紅型型紙(1)－』、沖縄県立芸術大学附属研究所、平成14年3月。
 2. 「シルクロードの織機」（共著者：吉本忍）『シルクロード織機研究』（シルクロード学研究センター紀要）、pp.163-287、平成14年3月。
 2. 「シルクロードの織機と織物」『シルクロード織機研究』（シルクロード学研究センター紀要）、pp.33-50、平成14年3月。
 3. 帯地「ラオスにて」第76回《国展》、東京都立美術館、平成14年4月。
 5. 解説「糸を作る」企画展図録『工芸王国 風土にいきる技』沖縄県教育委員会、平成14年3月。
 6. 番組構成・出演「沖縄の絣模様」平成13年度沖縄県立芸術大学放送利用大学公開講座「沖縄の民俗文化と芸術II・I」第3回、沖縄テレビ放送、平成14年1月26日。
 6. 番組構成・出演「沖縄の織物」（再放送）平成13年度沖縄県立芸術大学放送利用大学公開講座「沖縄の民俗文化と芸術II・I」第10回、沖縄テレビ放送、平成14年3月16日。
 7. ラオス北部・南部織物調査、平成14年1月9日～2月3日。
 7. 中国青海省・チベット自治区織機調査、奈良県立橿原考古学研究所助成研究、平成14年7月24日～8月8日。
- 2) 3. 「中国青海省・チベット自治区織機調査」平成14年度奈良県立橿原考古学研究所助成研究、研究代表者：泉森皎。

(4) 伝統芸能部門

宮城 能鳳（教授、兼任教員）

平成13年

- 1) 3. 平成13年1月9日、沖縄県かりゆし芸能公演（特別企画）＜迎春の舞＞に出演、雑踊「汀間当」を踊る。
3. 平成13年2月18日、第13回伝統組踊保持者公演にて組踊「女物狂」母

役で出演。

3. 平成13年3月10日～11日、国立劇場琉球芸能公演＜琉球王朝の芸能戌の御冠船＞にて舞踊「諸屯」、「伊野波節」、「柳」を踊る。組踊「二童敵討」「孝行の巻」の指導及び出演。
3. 平成13年5月3日、＜宮城能鳳の世界～青雲に彩翔ける～＞にて舞踊「天川」、「柳」、「花風」、「高平良万才」、「鳩間節」を踊る。
3. 平成13年6月3日、平成13年度組踊保存会定期公演にて、履曲「忠臣義勇」若按司役。
3. 平成13年6月11日～20日、第9回EUジャパンフェスト欧洲文化主都ポルト2001＜琉球王朝の華～琉球舞踊と組踊公演＞（ポルト、マルセイユ）の団長を務める。組踊「手水の縁」玉津役、舞踊「柳」を踊る。
3. 平成13年6月24日、＜第5回阿吽の会研究発表会～組踊と舞踊の夕べ～＞に出演。組踊「雪払い」おめなり役、舞踊「花風」を踊る。
3. 平成13年7月8日、＜伝統の至芸 男性舞踊家の競演～嘉利吉の御座（パートII）～＞にて舞踊「花風」、「金細工」、「加那よう天川」、「馬山川」を踊る。
3. 平成13年9月23日、＜安富祖流絃声会師範仲嶺伸吾独演会＞に贊助出演、舞踊「諸屯」を踊る。
3. 平成13年9月27日、組踊特別鑑賞会福島県公演にて組踊「忠臣義勇」若按司役、舞踊「天川」を踊る。
3. 平成13年10月14日、組踊特別鑑賞会石川県金沢市公演にて組踊「万才敵討」真鍋樽役、舞踊「天川」を踊る。
3. 平成13年11月18日、組踊保存会県内普及公演（玉城村）にて組踊「女物狂」母役、舞踊「天川」を踊る。
3. 平成13年11月23日、第4回中日音楽比較研究国際学術会議・東洋音楽学会第52回全国大会「琉球芸能鑑賞会」において組踊「手水の縁」の指導。
5. 平成13年4月22日、皇太子・妃殿下「琉球芸能鑑賞会」の解説を務める。
6. 講演「沖縄組踊の概要」九州・山口経済連合会、学術文化委員会、平

成13年3月29日。

6. 演目解説「沖縄の歌と踊り」NHK沖縄放送局、平成13年5月14日。

平成14年

- 1) 3. 平成14年3月9日、<尚育王代の琉球芸能一試演会 村々の女踊り～シマの身体に遺されたもの～>にて「かせかけ」、「伊野波節」、「金武節」を指導。
3. 平成14年3月10日、伝統組踊保存会定期公演にて組踊「大川敵討」乙樽役を演ずる。
3. 平成14年3月21日、第6回伝統舞踊保持者公演にて「天川」を踊る。
3. 平成14年6月16日、伝統組踊保存会平成14年度組踊復活公演にて組踊「孝行竹寿の巻」の構成・演出・振付。
3. 平成14年6月30日、<第11回師籍40年の軌跡～そのときどきの打組part 1～佐藤太圭子の会>に出演、「加那よう天川」を踊る。
3. 平成14年7月13日、NHKテレビ「芸能花舞台～沖縄の心を織る～」に出演、舞踊「伊野波節」を踊る。
3. 平成14年8月19日、<日韓古典芸能祭2002>横浜公演（能楽堂）、ソウル（国立国学院）にて「伊野波節」を踊る。
3. 平成14年9月28日～29日、復帰30周年記念鳳乃会北米支部13周年記念米国公演（サンフランシスコ：ハーブスト劇場、サンタクルーズ：カブリロ大学）に参加。
3. 平成14年10月22日、第14回高松宮殿下記念世界文化賞贈賞式「納奉古典芸能鑑賞会」に出演。
3. 平成14年10月26日、組踊保存会県内普及公演（平良市）にて組踊「執心鐘入」宿の女役。
3. 平成14年11月8日、沖縄県立芸術大学第13回邦楽定期公演にて組踊「二童敵討」の演出・指導。
3. 平成14年11月24日、国指定重要無形文化財全国普及公演（茨城県）にて組踊「執心鐘入」宿の女役、舞踊「天川」を踊る。

梅田 英春 (助教授、兼任教員)

平成13年

- 1) 2. 「沖縄観光における「文化」を考える」『MOUSA 沖縄県立芸術大学音楽学研究誌』 2、 pp.125-137、 平成13年。
 2. 「バリ観光における「見せる」芸能の生成——文化人類学における観光研究の事例として」徳久球雄他編『地域・観光・文化』嵯峨野書院、 pp.135-152、 平成13年。
 2. 「バリ人のしたたかな選択と戦略——バリ島観光化における芸能の生成」『季刊エクスムジカ』第4号、 pp.35-43、 平成13年。
 2. 「神々に捧げるワヤン——スクリーンのない影絵人形芝居「ワヤン・ルマ」にみる儀礼性」『民族藝術』第17号、 pp.100-110、 平成13年。
 2. 「観光文化政策からみた「かりゆし芸能公演」」『MOUSA 沖縄県立芸術大学音楽学研究誌』第2号、 pp.163-172、 平成13年。(共著)
 3. 《バリ島ガムラン音楽ワークショップと演奏》における企画構成・司会・演奏、 東京都国分寺第6小学校、 平成13年5月2日。
 3. 東京ガスミュージアムコンサート《青銅の響き》における企画構成・司会と演奏、 平成13年7月23日。
 4. 「現代バリにおけるダランの宗教性」国立民族学博物館共同研究会「ポスト「新秩序体制」インドネシアにおける地方的アイデンティティの人類学的研究」、 国立民族学博物館、 平成13年7月7日。
 4. 「アジアにおける観光と芸能」東洋音楽学会第52回大会ラウンドテーブル司会およびパネリスト、 沖縄県立芸術大学、 平成13年11月25日。
 5. 「天界へ向かう魂を陰翳にみる人々」『ホームシアターファイル』11、 pp.170-174、 平成13年。
 5. 「沖縄観光における<文化>」(上・中・下)『沖縄タイムス』平成13年10月23日、 24日、 25日。
 7. インドネシア、 バリ州における観光産業の現状に関する調査研究、 文部科学省平成13年度科学研究費補助金による、 平成13年7月31日～10月10日。
- 2) 1.b 「スハルト政権崩壊後のインドネシア地方社会に関する文化人類学的研究

究」平成13～15年度基盤研究A 1、研究代表者 杉島敬志（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）。

3. 「スハルト政権崩壊後のインドネシア地方社会に関する研究」平成13～15年度国立民族学博物館共同研究、研究代表者：中村潔。

平成14年

- 1) 2. 「バリ舞踊の聖俗論議セミナー(1971)の答申をめぐる一考察」『MOUSA 沖縄県立芸術大学音楽学研究誌』第4号、pp.79-92、平成14年。
2. 「現代バリにおける人形遣いダランの宗教的役割剥奪の歴史とその復権の兆し」『沖縄芸術の科学（沖縄県立芸術大学附属研究所紀要）』第13号、平成14年。
3. 《和光鶴川小学校開校10周年記念公演 バリ島の影絵芝居》におけるレクチャーとワヤン上演、和光鶴川小学校、平成14年1月。
3. 「バリ島のガムラン音楽と舞踊」《沖縄インドネシア友好協会設立15周年レクチャーコンサート》における企画構成、レクチャーと演奏、那覇市：おきでんホール、平成14年2月9日。
3. 《尚巴志文化祭 バリ・ガムラン公演》における企画構成と演奏、佐敷町シユガーホール中庭、平成14年11月9日。
3. 《魅惑の楽園 バリ島のガムラン音楽、舞踊と影絵芝居ワヤン》における演奏とワヤン上演、神奈川県立相模湖交流センター、平成14年6月30日。
3. 《バリ島のワヤン～クンバカルナの戦死》におけるワヤン上演、那覇市：アルテ鳥堀、平成14年7月12日。
4. 「バリ島の芸能と文化政策——文化審議育成委員会の諸活動とその成果」東洋音楽学会沖縄支部第33回定例研究会、沖縄県立芸術大学、平成14年5月18日。
7. インドネシアの文化政策の現状に関する調査・研究、文部科学省平成14年度科学研究費補助金によるインドネシア、バリ州における調査、平成14年7月22日～10月4日。

- 2) 1.b 「スハルト政権崩壊後のインドネシア地方社会に関する文化人類学的研究」 平成13～15年度基盤研究 A 1、研究代表者 杉島敬志（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）。
3. 「スハルト政権崩壊後のインドネシア地方社会に関する研究」 平成13～15年度国立民族学博物館共同研究、研究代表者：中村潔。
3. 「日本コロンビアの「外地」録音に関するディスコグラフィー的研究」 平成14～15年度国立民族学博物館共同研究、研究代表者：細川周平（東京工業大学助教授）。

久万田 晋（助教授、専任教員）

平成13年

- 1) 1. (共著)『市内民俗芸能調査報告書 村芝居－ぎのわんのムラアシビ』宜野湾市教育委員会、平成13年。
2. 「まつりの解釈を考える－ショチョガマ、平瀬マンカイ再考－（第一部）』『キヨラ』06号、神戸奄美研究会、pp.111-131、平成13年。
4. 「まつりの解釈を考える－龍郷町秋名のショチョガマ・平瀬マンカイ－」沖縄で奄美を考える会第19回研究例会、沖縄県立芸術大学附属研究所、平成13年7月22日。
4. 基調報告「沖縄芸能・民族音楽の現在」第4回沖縄研究国際シンポジウム沖縄大会シンポジウム「世界に拓く沖縄研究」に基調報告者（各分科会議長全9人）として参加・発表、沖縄県名護市：万国津梁館、平成13年9月22日。
4. 「沖縄芸能・民族音楽の現在」第4回沖縄研究国際シンポジウム沖縄大会－世界に拓く沖縄研究－第七分科会芸能学・民俗音楽学「沖縄芸能・民族音楽の現在」に議長・発表者として参加・発表、沖縄県立芸術大学、平成13年9月23日。
4. 「民俗音楽とポピューラーカルチャー（音楽）の創造」日本民俗音楽学会第15回名古屋大会パネルディスカッション「民俗音楽と新たな文化創造」にパネリストとして参加・発表、名古屋市：愛知芸術文化センター、平成13年10月13日。

4. 「琉球・沖縄芸能における<古典>概念の形成過程」 第4回「国民国家と民族文化」研究会、大阪市：飛鳥人権文化センター、平成13年12月22日。
6. 番組構成・出演「平成12年度沖縄県立芸術大学放送公開講座<沖縄の民族文化と芸術> 第3回沖縄の歌と踊り」(30分番組)、沖縄テレビ放送、平成13年2月25日午前1時20分～50分（再放送：平成14年3月10日午前1時30分～2時）。
6. 番組構成・出演「平成12年度沖縄県立芸術大学放送公開講座<沖縄の民族文化と芸術> 第4回アジアの中の沖縄音楽」(30分番組)、沖縄テレビ放送、平成13年3月18日午前1時20分～50分（再放送：平成14年3月31日午前1時30分～2時）。
7. 「沖縄の歌と踊り」『平成12年度放送利用大学公開講座<沖縄の民族文化と芸術>』沖縄県立芸術大学附属研究所、pp.20-23、平成13年。
7. 「アジアの中の沖縄音楽」『平成12年度放送利用大学公開講座<沖縄の民族文化と芸術>』沖縄県立芸術大学付属研究所、pp.34-37、平成13年。
7. 「雲南省楽器調査報告」『平成10・11・12年度文部省科学研究費補助金（基盤研究A）研究成果報告書 沖縄与中国雲南省少数民族の基層文化の比較研究』沖縄県立芸術大学附属研究所、pp.161-171、平成13年。
7. 基調報告「沖縄芸能・民族音楽の現在」『第4回沖縄研究国際シンポジウム沖縄大会－世界に拓く沖縄研究－基調報告・研究発表要旨』第4回沖縄研究国際シンポジウム実行委員会、p.29、平成13年。
7. 研究発表要旨「沖縄ポップにおける土着性表現をめぐって」『第4回沖縄研究国際シンポジウム沖縄大会－世界に拓く沖縄研究－基調報告・研究発表要旨』第4回沖縄研究国際シンポジウム実行委員会、p.116、平成13年。
7. 「沖縄伝統芸能をめぐる諸概念の展開」『アサヒビール MECENAT』vol.8 (平成13年11-12月号)、p.3。
7. 「東洋音楽学会沖縄大会に寄せて」『沖縄タイムス』平成13年11月17日朝刊号、17面。

- 2) 1.b 「尚育王代にあける琉球芸能の総合的研究」 平成12~14年度基盤研究B
研究代表者：板谷徹（沖縄県立芸術大学教授）。
- 1.b 「奄美沖縄諸島における儀礼歌謡の収集・研究とデータベース化」 平成12~15年度基盤研究B、研究代表者：玉城政美（琉球大学教授）。
3. 「沖縄の戦後ポピュラー音楽文化の普及と展開－メディア文化論／ポピュラー音楽学的アプローチによる研究－」 平成12~13年度サントリー文化財団助成研究、研究代表者：岡田朋之（関西大学講師）。

平成14年

- 1) 4. 「島尾敏雄と現在の沖縄」 『島尾敏雄と奄美』（藤井令一著、まろうど社）出版フォーラム＜たむいだむいぬ島尾敏雄＞にパネリストとして参加・発表、名瀬市中央公民館、平成14年1月20日。
4. 「沖縄のポピュラー音楽におけるナショナリティとエスニシティの相剋」 国立民族学博物館重点研究プロジェクト＜音楽・芸能と民族アイデンティティ ポピュラー音楽におけるナショナリティの表象＞研究集会、吹田市：国立民族学博物館、平成14年3月29日。
4. 「奄美における芭蕉布生産叙事歌とその文化的背景」 沖縄染織研究会第26回研究会、沖縄県立芸術大学附属研究所、平成14年5月24日。
4. 「小泉音階理論と＜音楽における民族性＞概念」 東洋音楽学会第53回大会パネルディスカッション「没後20年 小泉文夫の再発見」に司会・パネリストとして参加・発表、東京：東京芸術大学、平成14年10月13日。
4. 「沖縄芸能のゆくえ」 チャンブルトークバトル「我した芸能のゆくえ」にパネリストとして参加・発表、沖縄市：沖縄市民小劇場あしびなー、平成14年11月4日。
4. 「奄美大島のノロ行事・タネオロシ行事における歌と踊り」 沖縄で奄美を考える会第27回研究例会（沖縄・八重山文化研究会、宮古の自然と文化を考える会との合同例会）、沖縄県立芸術大学附属研究所、平成14年12月15日。
6. テレビ番組構成・出演「平成13年度沖縄県立芸術大学放送公開講座＜

- 沖縄の民族文化と芸術 II > 第6回 「新世紀の沖縄音楽」 (30分番組)、
沖縄テレビ、平成14年2月17日午前1時30分～2時。
6. 講演「エイサーに見る沖縄の芸能と音楽」 浦添市立図書館<親子で楽しむ沖縄学講座>第3回、浦添市：ハーモニーセンター、平成14年10月19日。
6. 司会「大学と公共ホール・芸術活動のこれから」 シンポジウム<これからの沖縄とアートマネージメント>、沖縄市民小劇場あしひなー、平成14年11月3日。
6. 「WHAT IS JAZZ ?」 沖縄市立中央公民館平成14年度中央公民館講座 (全5回)、沖縄市立中央公民館、平成14年11月15日～12月13日。
7. 「新世紀の沖縄音楽」 『平成13年度放送利用大学公開講座 沖縄の民族文化と芸術 I・II』 沖縄県立芸術大学附属研究所、pp.38-42、平成14年。
7. 「音楽概観2001 覆面座談会－癒しの沖縄－」 『沖縄文芸年鑑 2001年版』 沖縄タイムス社、pp.25-26、平成14年。
7. ライナーノート「シーサーズのうた、シーサーズのこえ」 CD『シーサーズ 桑の木の下で一びる』 復刻盤、満月レコード MR-1001、平成14年。
7. 「チョンダラー」「沖縄なんでも事典」 web版、有限会社インパラ、平成14年。
7. 「芸能学・民族音楽学<議長総括>」 『第4回沖縄研究国際シンポジウム 世界に拓く沖縄研究』 第4回沖縄研究国際シンポジウム実行委員会、pp.631-635、平成14年。
7. シンポジウム記録「シンポジウム 世界に拓く沖縄研究」 『第4回沖縄研究国際シンポジウム 世界に拓く沖縄研究』 第4回沖縄研究国際シンポジウム実行委員会、pp.77-148、平成14年。
7. 発表記録「奄美における芭蕉布生産叙事歌とその文化的背景」 『沖縄染織研究会通信』 Vol.25、pp.1-16、平成14年7月12日。
7. パネルディスカッション主旨文「没後20年 小泉文夫の再発見」 プログラム『東洋音楽学会第53回大会』 (社) 東洋音楽学会第53回大会実行委員会、p.22、平成14年。

- 2) 1.b 「尚育王代における琉球芸能の総合的研究」 平成12~14年度基盤研究B、
研究代表者：板谷徹（沖縄県立芸術大学教授）。
- 1.b 「奄美沖縄諸島における儀礼歌謡の収集・研究とデータベース化」 平成
12~15年度基盤研究B、研究代表者：玉城政美（琉球大学教授）。
3. 「日本コロンビアの「外地」録音に関するディスコグラフィー的研究」
平成14~15年度国立民族学博物館共同研究、研究代表者：細川周平（東
京工業大学助教授）。